

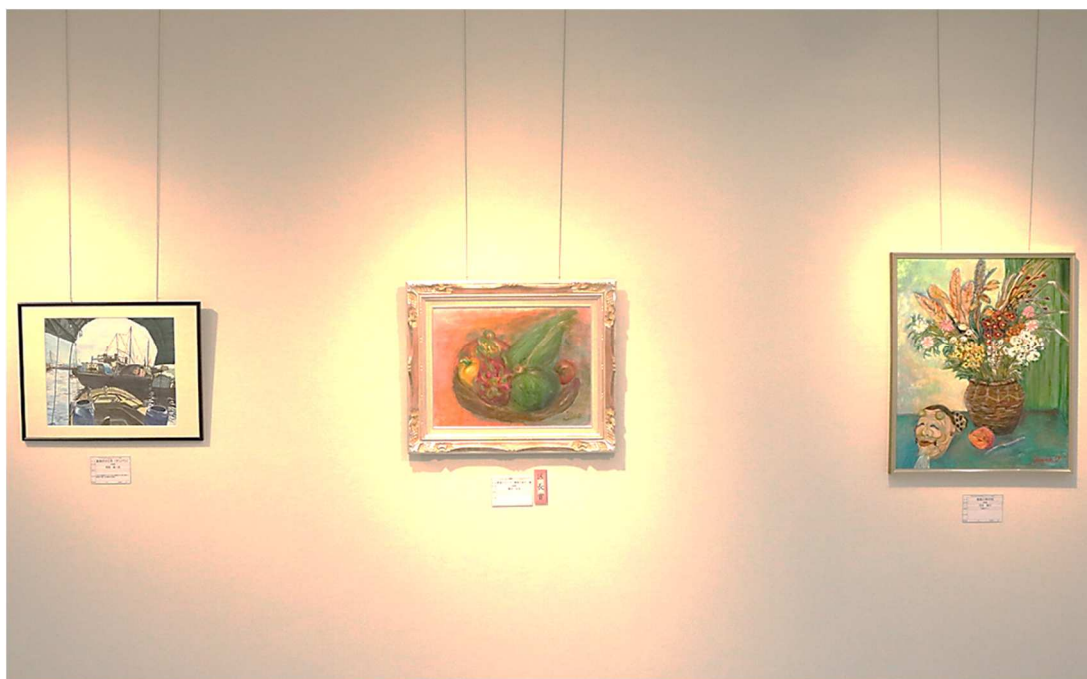
令和3年度新宿区生涯学習フェスティバル

絵

画

展

作品目録



- ◆日時 令和3年9月29日(水) ~ 10月3日(日)
午前10時~午後5時(最終日は午後2時まで)
- ◆会場 新宿文化センター 地下1階 展示室
- ◆主催 公益財団法人新宿未来創造財団
- ◆共催 新宿区

作 品 一 覧 (展 示 順)

	【 題 名 】		【種 類】	【氏 名】	【活動団体名:活動場所】
1	花は咲く	奨励賞	水彩色鉛筆	友部 美奈子	
2	カサブランカの市場		水彩画	光中 博美	絢の会
3	外苑西通りからの新国立競技場		水彩画	藤井 茂徳	キサラギ会(大久保地域センター)
4	飲茶のひとつとき	奨励賞	水彩画	竹内 元章	早稲田アート
5	風景		水彩画	牧野 晴美	絢の会
6	果物		水彩画	森 優子	早稲田アート
7	小豆島・エンジェルロード(瀬戸内海)		水彩画	宮川 幸子	キサラギ会(大久保地域センター)
8	地の恵		水彩画	屋宮 早苗	絢の会
9	ひまわり畑のネコ		水彩画	花沢 美代子	絢の会
10	窓景	銀賞	油彩画	加瀬 誠一	
11	牛込台地	奨励賞	水彩画、パステル画	古賀 晴彦	社会福祉法人東京ムツミ会 ファロ
12	春の訪れ		水彩画	乾 佐知子	キサラギ会(大久保地域センター)
13	香港仔の小舟(サンパン)		水彩画	阿部 毅一郎	
14	野菜のイロドリ果物の彩り～夏	区長賞	油彩画	菅井 なを	
15	能面と秋の花		油彩画	竹内 潤子	早稲田アート
16	おいしいもの		水彩画	堂森 真之介	お絵かきくらぶあいじえん
17	もりの2ひきのへび		水彩画	西村 十五	お絵かきくらぶあいじえん
18	虹色階段		水彩画	山村 杏実	お絵かきくらぶあいじえん
19	森のトンネルとたいよう		水彩画	紺野 修旦	お絵かきくらぶあいじえん
20	ハート		水彩画	山村 琴葉	お絵かきくらぶあいじえん
21	いちごもわらった	奨励賞	水彩画	堂森 なな	お絵かきくらぶあいじえん
22	歩きたい道	銅賞	水彩画	佐藤 美夢	お絵かきくらぶあいじえん
23	築地塀にみとれて		水彩画	大井 邦江	
24	夜光雲と十五夜		パステル画	尾形 静香	
25	ぼたん		水墨画	小松 早苗	彩苑会
26	咲いた咲いた		水墨画	広渡 浩子	彩苑会
27	さざんか		水墨画	山中 良子	彩苑会
28	木槿		水墨画	平田 悠子	彩苑会
29	軽鴨の親子	奨励賞	水墨画	若月 千晴	彩苑会
30	おおきくなって	銅賞	その他(ろう画)	古川 理絵	
31	鳥達の旅行	奨励賞	アクリル画	坂本 毅史	新宿青年教室
32	母の響	奨励賞	アクリル画	遠藤 貴志	新宿青年教室
33	裏磐梯		水彩画	石田 雅章	
34	南ドイツ・メーアスブルク街	奨励賞	油彩画	菅井 脩	

	【 題 名 】		【種 類】	【氏 名】	【活動団体名:活動場所】
35	果物	銀賞	油彩画	渡辺 浩志	真美会
36	長門牧場		油彩画	杉本 嘉子	
37	春の百日紅	銀賞	油彩画	岡崎 恭子	
38	春が来たよ	金賞	日本画	山賀 美登子	
39	夏のおわり	銅賞	水彩画	友部 政義	
40	ベンセ湿原		油彩画	中嶋 修	
41	ミモザ	金賞	水彩画	棚橋 久子	絢の会
42	山百合	奨励賞	水彩画	池田 至	キサラギ会(大久保地域センター)
43	シクラメン		油彩画	宮之原 和子	早稲田アート
44	白山御前ヶ峰5月		版画	横田 和俊	新宿みんなのアート展実行委員会
45	母の畑より		水彩画	中川 富子	
46	思い出のサントリーニ	奨励賞	その他(筆ペン画)	梶谷 秀子	東京を描く市民の会
47	緑の窓辺	銅賞	水彩画	竹中 弘	

～ 区 長 賞 選 評 ～

日常の中にある近しいモチーフを、おそらく手に取り動かしながら、そのイメージを捉えているように思えます。また、周りの空気やにおいも感じながら描いている様子もうかがえます。

細かなタッチから、全体的にふんわりした印象を受けますが、ひとつひとつのモチーフがしっかり描きこまれていて、制作に対する真摯な姿勢を感じました。

～ 講 評 ～

(審査員 50 音順)

今年初めて審査に関わらせていただき、みなさんの作品にふれることができ、大変うれしく思います。長引くコロナ禍の影響下でも、こうして制作に励みご出品くださったみなさんに、敬意を表したいと思います。

審査は大変悩みましたが、結局「引きつける力」が一番のポイントとしました。絵画を含む造形とはまことに謎めいたもので、どんな高名な作家にも駄作はありますし、絵を描きはじめてばかりの子供にも、人を驚かせる傑作をうみだす力が備わっています。では、描き手の個性が花開き、画面がちからを放つにはどうすればよいのでしょうか？ 難しい問題ですが、やはり日々の制作をとおして自身との対話を続けることで、みえてくるものなのではないかしらと、私などは考えています。

さて、このたび区長賞に選ばれた《野菜のイロドリ果物の彩り～夏》は、疑いなく真摯に制作に向き合ってきた日々の積み重ねのたまものと思われませんが、同時に、制作から少し離れた日常生活の感覚が、個々のモチーフへの感情ととけあい、結果なかなか表現し難い空気感を

立ち上がらせることができたのではあるまいかと、勝手ながら想像しております。

金賞の《ミモザ》は、花瓶から溢れる花の房のおさまりが見事で、玄人はだしの構成力を感じます。また銀賞の《春の百日紅》は、木々の色合いの変化がうみだす奥行き感と光のゆらぎに、どこか懐かしい「洋画」の香りが漂います。銅賞の《歩きたい道》は光にあふれる春の心地よいひとときが詩情豊かに表現され、思わず顔がほころんでしまいます。同じく銅賞の《おおきくなって》は、蠟画という実に渋い(と私は思うのです)技法で、実に明るく元気よい情景が描かれていて、個人的にとても気に入りました。

悩みつつも楽しく、充実した審査のひとつを過ごさせていただきました。ありがとうございます。みなさんがこれからもお元気で、制作に励まれることを願っています。

福沢一郎記念館 非常勤嘱託(学芸員) 伊藤 佳之

展覧会を前に作品を内覧させていただき、感染症の蔓延によって生活の各所に制限のある時勢に、それぞれの

思いと環境の元、静かに、時に熱く、絵に向き合ってらっしゃる姿を思い浮かべて、描くこと、また発表することの大切さをあらためて考えました。ありがとうございます。

ご自身のために誠実に向き合っただけの作品に優劣はつけられませんが、いくつかの作品について感想を書かせていただきます。

『野菜のイロドリ果物の彩り～夏』モチーフと向き合う目を思いました。手探る筆の痕跡の重なりが、制作と共に生きる作者の時間をも、その絵肌に留めているように感じました。『果物』(No.35) 背景の黄色と布の緑色を基調に難しい三原色を使い、影をほとんど排した表現によって、果実や器物の色彩を鮮やかに描き出していました。

『春が来たよ』少女とその風景への優しい気持ちを感じました。帽子の丁寧な描写には日本画絵具ならではの魅力があり、遠景に描かれた温室には身近な詩情を想いました。『花は咲く』水彩色鉛筆での丁寧な描画の重なりと、滲ませていく筆致から、その季節の空気感が感じられました。細かく描き込まれたビルの看板は楽しく、主要モチーフの紫陽花では特に陰の部分の色彩に目が惹きつけられました。

『南ドイツ・メアスブルク街』風景の堅牢な構図に人物が描き込まれていたことで、空間の広さが伝わってきて、また街の営みのイメージが呼び出されました。窓辺の花の際立った赤は印象深くあり、穏やかな空の青さに惹かれました。『山百合』咲き乱れる山百合の群れ、花の表情の描写に繊細さとドラマチックな魅力を感じました。茎、葉の部分が少し混雑しているように感じましたが、あと少し仕事を加えると、さらに良くなると思いました。

お子さんの作品からは、絵具と筆、手を動かすことを楽しんでいる様子が、とてもよく伝わって来るように思いました。大人顔負けの立派な抽象画です。

水墨画の皆さんの作品には、白い紙に直面する時の、心と筆の繋がる静かな時間を思いながら拝見しました。

日本画家・絵画講師 近藤 鋼一郎

昨年に引き続き、制限のある中での開催となってしまいました。ですが、そんな最中に生まれた作品には、一層強い制作への意志が感じられ、こちらも大変勇気づけられました。不安な生活の中でこそ、皆さんが絵に向かう時間の必要性を信じ、じっくりと真摯に制作された事が作品から伝わって来ました。手間も時間も要する油彩画の比較的大きな画面に挑戦された方が目立つのも、そういったことの現れかもしれません。区長賞に選ばれた『野菜のイロドリ果物の彩り～夏』も、その優れた一例と言えるでしょう。

同じ題材の油彩画『果物』はその色彩の鮮やかさが目を惹きます。黄色と緑に分割された画面にゴロンと鮮やかなブルーの器という構図がとても気持ち良く、絵の具の表情も魅力的です。主役である果物でも、思い切ってデフォルメしたり、大きな色面で捉えるような表現に挑戦してみたいかがでしょうか。

額縁も含めて制作された『窓景』は、相当数のシリーズ作品になっているのではないのでしょうか。窓と絵画とその枠という普遍的なテーマに継続して取り組まれている姿勢に、まず敬意を表したいです。絵画の内と外、向こう側

とこちら側が揺らぎながら眼前に像として留まる事の不思議を改めて感じました。

水彩画『緑の窓辺』は二枚の薄紙を上下に継いだ画面構成にまず驚きます。台風の翌日の晴れ渡った爽やかな空と下方で絡まった蔦の禍々しさという、ひとつの風景の中のアンビバレントな現れが、この継いだ紙の画面構成も手伝って面白く感じられました。説明的でない描き方も、見る者にクエスチョンマークを残しながらも惹きつける魅力になっています。

『牛込台地』は水彩とパステルの淡い色調とざらつきが全体的にユニークな表情を生んでいます。そして、広がる家々が多視点的に捉えられ、空間を飛び回るような楽しさを見る側に与えてくれます。

他にも言及したい作品はたくさんありましたが、紙幅に限りがあるので、以上に留めます。今年も皆さんの作品に新たな絵の面白さを教えて頂きました。参加してくださった皆さんに改めて感謝申し上げます。

美術家(現代美術) 諏訪 未知

とてもバラエティの豊かな応募作品が集まっていて、見ているのも楽しくなる絵画展だと思います。いずれの作品も力を込めて描いているのがよく分かりました。油絵や水彩画、アクリル、水墨画のほかにパステルや蠟画まで幅広いジャンルで、それぞれの特徴を活かそうと工夫と努力をされている成果が現れていると思います。

区長賞を受賞した『野菜のイロドリ果物の彩り～夏』はトウモロコシやトマトなどが緩やかなタッチと暖かみのある色彩で描かれていて、季節感のある身近な食材に対する作者の親しみや愛情を感じました。何度も油絵の具を重ねて微妙な色調を出しているところも印象的で、熱心に描かれた作品だと思います。

また『ミモザ』は青い花瓶に黄色と赤の花を三原色で鮮やかに描き、構図も上手にまとめています。ミモザの花には水彩画特有の滲みがきれいに使われていて、水彩の技法に長けているのが分かります。一方で、『いちごもわらった』には、独特のセンスが光っています。画面に大きく引かれた赤い線で輪郭の中に、白い絵の具が緩やかに線を描き、飛び散った部分がアクセントをつけています。緑やピンクなど沢山の色も使われていて、抽象画として見てもよく描けていますし、自由で楽しい気分が伝わって来ます。

全体的には、日常生活の中から主題を取った果物や花の静物画が多く出品されていて、身近な生活に改めて目を向けるようになった今の状況が反映されているように思えました。同時に、広々とした山の景色や海外の街並みを題材にした風景画からは、以前に訪れた旅の記憶を大切にしながら、自由に動きまわれるようになるのを心待ちにしている様子が伺われ、親近感を覚えました。しっかり細部まで描いた作品も多く、誠実な制作態度に好感を持ちました。構図や色の組み合わせ、画材の使い方などをもっと自由に試して、それぞれの好みを色濃く発揮した絵画を生み出していただけるといいなと思います。ぜひ、これからも素敵な作品を制作してください。

公益財団法人 SOMPO 美術財団

SOMPO 美術館 学芸員 武笠 由以子